

会議記録書	
会議名	第21回草津市図書館協議会（委員発言・質問、事務局事業説明・回答要旨）
日時	平成30年2月22日(木) 13:30～15:00
場所	草津市立図書館 2階 会議室2
出席者	委員名 岸本委員長、高山副委員長、藤野委員、藤居委員、新谷委員、澤村委員、小寺委員 欠席：木津委員、石本委員、都出委員 事務局（北相模図書館長、二井副館長、川端副館長、吉田専門員）
傍聴者数	1名
記録作成者	図書館 二井

1. 館長挨拶 29年度後期の事業報告と30年度の運営計画を順次説明するので、委員の皆様のご意見、ご指導を賜りたい。

2. 報告事項

◎ 第19回（平成29年度第1回）図書館協議会議事録の承認について

資料1 図書館協議会議事録（修正分）

- ・事前に委員の皆様に議事録をお送りさせていた。訂正が2名の委員からあった。（資料4ページと10ページの赤字の部分）訂正以外で中身の変更はない。意見なしのため承認。

◎ 平成29年度図書館実施事業報告について

資料2 平成29年度事業

- ・新たに取り組んだことを中心に話をさせていただく。
レファレンスサービスでは、レファレンス協同データベースを導入した。利用者からの多種多様な質問に答えられるように新聞・法情報のデータベースとあわせ、職員研修も実施している。
- ・南館では市民講座「乳がん」、「こどもの食育」をテーマに実施。
- ・本館では歴史講座(全2回)の実施。
- ・学校連携では先生のご要望の声を反映して団体貸出用セットに「平和学習」と「昔話」を新たに作った。また出張ブックトークについて、開催時間(お昼休みや放課後)やミニブックトークなど学校のニーズに合わせた工夫により充実を図った。

資料3 アンケート集計結果

- ・実施期間 (本館)平成29年11月24日から12月 7日
(南館)平成29年12月 8日から12月21日
- ・回収枚数 (本館)891枚
(南館)984枚

アンケートは18項目あり、図書館への満足度では、「満足」、「概ね満足」が約90%。

9 ページの各種対応については各種サービスを知らない人にいかに知ってもらおうかということが課題として見えてきた。これからも満足度の向上につながるよう努力していきたい。

◎ 平成30年度事業について

資料4 平成30年度図書館事業計画 ①本館 ②南館

図書館協議会について平成30年度は運営計画の見直しの時期であり年4回を予定。

平成30年10月に両館で図書館システムの入替えを予定。

ICタグを活用した事業として図書館福袋を実施。(例年は図書館おみくじ)

3. 意見交換質疑

・ブックンを学校でどのように利用しているのか

市内14校を一学期毎に巡回配本(約200冊)している。

テーマは「環境と算数」、「滋賀の作家」、「絵本・写真集」等

テーマによっては、学年の近くの廊下に置いて休み時間に読めるように配慮したり、図書室の一角にブックンコーナーを設けたり、調べ学習に活用したりしている。

算数の本を授業で活用等、各学校によって工夫が見られる。

ブックン(図書セット)が学校に巡回するのはいいシステムだと思う。

圧倒的な量の差があるので、テーマを限定して寄付を募る。雑誌スポンサーのように寄付をされた方がわかるようにするのはどうか。

・学校のカリキュラムと連動させているテーマとなっているのか。

カリキュラムに合わせた学習セットを公共図書館でまかなえていないのが現状。

・ブックンについて

ブックンと学級貸出用セットの更新はしているのか。

市内14小学校に巡回配本しているので、一旦引き上げる3月に傷んだ本の差し換えなど更新している。更新リストは、学校の「たび丸ねっと」(共有データベース)に挙げて通知している。

・学校のカリキュラムは同時に同じ資料が必要なので、その辺を調整する立場の先生が学校の中に必要ではないか。学校司書さんと公共図書館が連携を取りながらうまく動いていけばいいと思うが。

・個々の学校図書館で確認するのではなくて、例えば学校図書館センターとして蔵書を充実させて市内の学校の授業、カリキュラムを調整すれば全学校回していくということが可能になるのではないか。最終的には学校図書館センターと公共図書館が連携していくという形を考えていかないと学校ごとに個々に連携していくのはかなり厳しいのでは。

・学校図書館センターが草津市にできると中学校としてもありがたい。

・ICタグについて

システムの入替え時期に合わせて機械を設置予定である。

出入りに設置するのは、盗難防止というよりも貸出ミスを防ぐというような意味合い。

ICタグの貼付によって、本のバーコードを一冊ずつ読まなくても、アンテナテーブルに乗せるだけで一気に貸出手続きが可能。

蔵書点検もスピードアップが図れるので、開館日数の増加が見込める。

・学校もICタグ化になるのか

蔵書数や利用の混雑から貸出時間を短くすることや、蔵書点検期間の短縮を目的にしている。小中学校の図書室のICタグ化の話はないかと思われる。

・ICタグをつけることで業務の効率化を図り、職員を減らすなんてことはないのか。

今のところそういう話は出ていない。レファレンス(調べもの)のお手伝いやフローワーク(書架で本を探されているお客様への声掛け、案内)が充実できるよう体制を整えていきたいと考えている。

・ブックトークについて

ブックトークは一つのテーマでいろんな本を紹介することで、読書領域の幅を広げる、読書の潜在要求の掘り起こしを行うもの。子ども達に「読んでみたいなあ」という気持ちにさせることが大事で実際に手に取ってもらい読んでもらうために、いろんなジャンルの本を準備している。

申込みを受けたら、基本は一クラス、一時間授業単位で行うが、お昼休み時間を利用したミニブックトークを学校の図書室で行っている。対象は小学3年生以上です。

・レファレンスサービスについて

レファレンスという言葉自体の意味がよくわからない。

用語解説を作成して、図書館案内のパンフレットにすると好評だった図書館があった。

図書館の仕事のPRにもなるのでは。

・利用者アンケートについて

10代(小学生)の利用状況は把握できていたら教えて欲しい。

図書館に来ない人のアンケートをどうやってとるか、図書館に来ない人、利用者を増やすということの工夫のために学校にご協力いただいてはどうか。

アンケート結果は本館と南館別々に出してほしい。

未利用者へのアンケートは、市役所の様々な世論調査の項目に図書館の利用状況把握も入れてもらったらどうか。

・アンケートの満足度調査について

どちらでもない『普通』は全然違う。『満足』と『概ね満足』を合計して満足度が高いという把握の仕方はかなり危ない。

聞き方を整理します。

乳幼児サービスの満足度が高いが、具体的にどういうことだったのか。

アンケート項目にある児童・乳幼児向けサービスのおはなし会などの行事について参加しても中身も楽しいし、よかったよという意味でとらえている。

- ・アンケートの自由記述について
本棚にある本のWEB予約については職員間で議論し検討中。
検索機の使い方については、システムの入替え後に行う予定。
Webopac、ネットで図書館の資料を検索すると本の表紙がわかるようになる。
その他、開館時間の延長や祝日開館などの要望については、限られた予算でなおかつ、どうしても運用面で対応できない面もあり、課題として受け止めながら、引き続き検討していきたい。
- ・3階大会議室の子ども達への開放については沢山の絵本を並べる広場読みのようなかたちで今後検討。
- ・自由記述について図書館側回答はしているのか。
具体的にはしていない。
図書館側の考え方をきちっと説明できるいい機会なので、是非回答を出して欲しい。
- ・マナーが良くないというのはどういうことなのか
新聞や雑誌は1人1紙のルールを守らず、何紙(誌)も持ち出す、館内で携帯電話で話す大声で話すなど。
- ・学校図書館の本は何冊くらいか
小学校で約1万冊強、中学校で約1万2～3千冊ある。
- ・文科省の学校図書標準は満たしているのか
充足率は満たしている。
資料そのものが古い、内容が古いものも含まれている。今後の課題。
- ・運営計画の中で様々な運営方針が出され、各項目が挙がっている。
平成29年度の実施事業のそれぞれが、運営計画とどう関わっているのか、きちんと照らし合わせる形で整理してほしい。
- ・赤ちゃんコーナーの近くに赤ちゃんの保護者世代が読むような本のコーナーを作してほしい
- ・乳幼児向け(木よう)おはなしのじかんが両館で開催になり嬉しい。